

《2018 年 鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 決勝レポート》

・ 7 月 26 日 (木) フリー走行

スズキ株式会社の社内チーム『浜松チームタイタン』の第 1 ライダーである、武田数馬選手(チームタイタン所属)が負傷により急きょライダー、和田憲史郎(ベガスports所属)とメカニック、神谷で助っ人参戦することとなった今年の 8 耐ですが、事前に合同走行の 3 日間しか練習することが出来ず気持ちの切り替えもできないままレースウィークを迎えてしまったという気持ちが拭えませんでした。

今年は新型の GSX-R1000 での参戦ということもあり、とにかく走行時間を作りオートバイに慣れ、どのようにオートバイを合わせこんでいけばよいのかもわからないので、確信的に気になるところのみ変更し、車両の特性を理解することを重点的に進めていく予定でした。

しかし、なかなか上手くはいかないもので、初日からギア抜けやエンジンの失火などのトラブルが発生してしまい、まともに走行することが出来ませんでした。最終的にはミッション、オートシフターをすべて交換し、予選に向けてトラブルが治っていることを祈るしかありませんでした。ただ、こういったトラブルがありながらも前向きに作業を進められたのは、新型 GSX-R に採用されたカセットミッションや、本社からの部品のバックアップ、さらには GSX-R を開発した方がサポートしてくれていた事が大きかったと思います。



・ 7 月 27 日 (金) 予選

今年は、和田憲史郎(ベガスports所属)選手と上林隆洸選手(チームタイタン所属)の 2 人で走り、その平均タイムによって予選順位が決まります。しかし、耐久レースですので予選順位はそこまで重要ではないのですが、助っ人として呼んでもらったからにはある程度のタイムは出さないとカッコ悪いと思い、ひそかに目標タイムは和田選手と決めていました。

12 時 5 分、第 1 ライダー和田選手の予選 1 回目の走行が始まりました。タイヤの特性もあり、最近では 3 周目にベストタイムを出すように練習してきました。そして 1 周、2 周と順調にタイムを上げ、アタックの 3 周目第 1 セクターを自己ベスト更新、第 2 セクターも自己ベストそして第 3 セクターも自己ベスト！これは目標タイムが出た！と思った瞬間、他車が転倒したため赤旗中断となりました。

予選再開後は、タイヤのいいところ使い切ってしまったためタイムアタックは中止し、ある程度のペースで走り切りました。予選 2 回目は、タイヤの使用制限もあり、中古のタイヤで決勝を見据えたセッティングを確認する作業に終始しました。



第 1 ライダー 和田憲史郎
予選 1 回目 ベストタイム 2' 15.690
幻の予想ベストタイム 2' 14.200
予選 2 回目 ベストタイム 2' 16.452



第 2 ライダー 上林隆洸
予選 1 回目 ベストタイム 2' 18.251
予選 2 回目 ベストタイム 2' 19.507

結果 総合 58 位 2' 16.970(ライダー 2 名平均タイム)

・7月28日(土)

この日は唯一、夕方にあるフリー走行をガソリンフルタンクで走り、ライダー2人セッティングを確認し決勝に向けての最終確認でした。

最終的には、少し上林選手寄りのセッティングで落ち着き、あとはタイヤ交換などのピット練習を行い、少し遅めの帰宅となりました。その夜は台風が直撃し波乱の決勝を予感させるものとなりました。



・7月29日(日)決勝

前日からの台風が過ぎ去った影響で、時折雨が降るなどかなり不安定な天候が続いていました。決勝前のフリー走行では、走行直前にゲリラ豪雨に見舞われたかと思うと、急に晴れだし走行中に路面が急激に乾くなど状況の判断が難しい状態でした。刻一刻とスタート時間が迫る中、またもや一時的に雨が降り、しばらくすると止んだものの路面状況は完全にウエットでした。ほとんどのチームがレインタイヤに交換する中、チームタイタンは午前中のフリー走行での路面の乾くスピードからスリックタイヤでスタートすることを選択しました。結果スリックタイヤでスタートしたのは有力チームではモリワキレーシング、モトマップサプライの2チームだけでした。

午前11時30分、濡れた路面で伝統のルマン式スタートにより決勝が始まりました。スタートライダーは和田選手、スタートは上手くいったものの、やはりレインタイヤを履いているライダーたちにあっという間に抜かれました。濡れた路面をスリックタイヤで走ることがどれだけ危険かを知りながら、路面が乾くというピット側の指示を信じて我慢の走行を続けてくれているライダーに、追い打ちをかけるかのように序盤で2周の差がつきました。

そして予想していたよりも5分程度遅れながら徐々に路面が乾いていきレインタイヤからスリックタイヤに交換するチームが出てきました。和田選手もすでにレインタイヤを履いたチームより速いタイムで周回を重ね、ここから挽回しようとしていたそのときスプーンカーブでまさかの転倒をしてしまいました。和田選手はクラッチレバーに手を挟み、痛めたものの幸いにもバイクに損傷はなく、上林選手に交代してコースに復帰しました。その後は、突然の豪雨により転倒車がコース上に残ったり、他車のオイルが路面に流出するなどしてセーフティカーが、3度導入されるなどの波乱はありましたが、ピットタイミングが上手くはまりいい形で走行をこなすことが出来ました。

そして午後7時30分、上林選手によって無事8時間時間のゴールチェッカーを受けることが出来ました。

2018年鈴鹿8時間耐久レースリザルト

チーム 浜松チームタイタン

ライダー 和田憲史郎/上林隆洸

総合順位 出走台数 64 台中(完走 49 台) 43 位

周回数 177 周 合計時間 8 時間 1 分 2 秒

